

### 第3回 長浜市総合計画審議会 議事録

I 日 時 平成28年1月22日（金曜日）13時30分～15時30分

II 場 所 長浜市役所東館5階 5A会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（会長）、 平山奈央子委員、 松島三兒委員、  
大久保槇雄委員、 前田優子委員、 塚田益司委員、  
中西恭子委員（副会長）、 大谷晶子委員、 板山きよ美委員、  
平川市孝委員、 川崎四朗委員、 押谷喜美子委員  
【事 務 局】総合政策部：藤原部長、松居理事兼総合政策課長  
総合政策課：元村副参事、川村主幹、柴田主事  
職員ワーキング：川瀬キャプテン、山崎副キャプテン

IV 欠席者 神谷昌史委員、 福島孝夫委員、 中嶋毅委員

V 傍 聴 1 名

#### VI 内 容

##### 1 開 会

事 務 局 事務局より開会を宣言した。

##### 2 議 事

（1）これまでの検討経過について

事 務 局 事務局は、資料1, 2に基づき説明を行った。  
一質疑なし

（2）新基本構想の骨子案について

事 務 局 事務局は、資料3に基づき説明を行った。

会 長 欠席の委員から事前に意見が提出されているとのことなので、まずは、そちらを説明いただきたい。

事 務 局 委員から出された意見は以下のとおりである。  
・基本構想の構成については、事務局提案のとおり、D案でよい。  
・新基本構想での変更点（p1）については、目標と対応する政策分野との関係性を明らかにするという点でよい。ただし、1点気になるのは、現行基本構想において、市民の評価が低い分野の政策をどうするのか、明記すべきではないか。

・新基本構想骨子(p2)については、理念はそのとおりでよい。将来都市像については、「満足度の高いまちづくり」を端的に言い表すことができればと思う。案①の「チャレンジ」は、職員に対する意識改革であり、市民に求めるべきものではないように思う。案②の「とことん」は、10年以上前から全国のJAグループでキャッチコピーとして使用しており、新鮮さに欠けるように感じる。3つの重点テーマについては、そのとおりでよい。なお、重点テーマ②「みなぎる」の取組みの方向性の中に、農業人材バンクのような機能を位置付けられないか、検討いただきたい。

会 長 本日の会議には、職員ワーキングの代表も出席されている。骨子案に関する補足説明などがあれば、発言いただいて構わない。

職 員 WG 検討にあたり、まず前提としたのは、人口減少・少子高齢化がますます進展する中、今後、行政に求められる役割や機能はこれまで以上に多種多様となることが確実視でき、その一方で、必要となる財源や職員は減少し続け、非常に厳しい状況にあるということである。

このような認識のもと、案①については、「お金がなければ知恵を出すことが重要であり、知恵を出すためには創造性が豊かでなければいけない。また、官民パートナーシップにより行財政改革を進めるにあたり、新しい公共の担い手としてこれまでの『協働』から一步踏み出し、共に創りあげていく『共創』の関係を市民の皆さんとともに築いていきたい。」との思いを込めている。「Challenge & Creation」の英語表記については、わかりにくいと言われる方がおられることも承知しているが、これまでから本市では他市に先駆けていち早く小学校から英語教育を取り入れるなど、グローバル教育を進めていることから、あえて英語表記とすることで、世界の長浜というメッセージを発したいと考えた。

案②については、私自身、長浜が好きで良くしたいという気持ちが強く、長浜にこだわり、満足するまで長浜を愛し続けたいと考えている。一人でも多くの市民の方々に、各々様々な形で長浜への思いを強めていただき、その輪をさらに広げていけるよう「とことん」という誰にでもわかりやすいコピーを提案させていただいた。

会 長 今回、2つの案が提案されたということは、職員ワーキングの中でも1つに絞れなかったということか。特にどちらと問われれば、どちらがよいと思うか。

職 員 WG 職員ワーキングとして1本にまとめきれなかったが、私としては、案①を推したいと考えている。

会 長 基本構想の体系は、現行と大きく変わっていない。今回はメリハリを付けるという意味で3つの重点テーマを定め、テーマに即して横断

的な重点プロジェクトをこれから提案していくとのことだが、これについて意見はあるか。つまり、D案で進めることとしてよいのか。

全出席委員 よい。

会 長 将来都市像の理念については、最終的に文章として起こすということとでよいのか。また、その理念を簡潔に言い表す文言として、キャッチコピーが置かれるという理解でよいのか。

事 務 局 ①ー④、及びAーBの流れをしっかりと文章で表現させていただく。キャッチコピーについてもご指摘のとおりである。

会 長 案①、案②について、質問も含めて意見をいただきたい。

委 員 この2つの案に至るまでの検討経過、他の案などについて、参考までに教えていただきたい。

事 務 局 資料2, p5に全てではないが記載させていただいている。審議会等でいただいた意見を参考に事務局としても検討を行った。40～50の案で検討を進めてきており、次点というものは特にはないが、資料記載の2案に事務局としての意見が集約できたので提案させていただいた。今回は、まちづくりを行った後の最終的なまちの姿ではなく、取り組みの途中経過・意気込みを示したいと考えている。

委 員 英語表記については、国際化の観点から必要なのかもしれないが、年配の方もおられることから、再検討が必要ではないかと思う。また、「共創」は言葉にすると「競争」などと判別できず、誤解を招かないか危惧するところである。

委 員 案②の「とことん」は好きである。しかし、「あふれる愛 みんなで未来を創るまち」はコピーとして弱く理念に書くべきものかと思う。

案①については、パツと見て格好いいと思う。未来に向けた意気込みが感じられ、とても好きである。英語表記の懸念はあるが、あえてこれくらいインパクトを出した方が、これから変わるというイメージが沸いてよいのではないのか。また、「共創」は語感で誤解を招きかねないが、共に創るという考え方は是非入れていただきたいと思う。何もしなければ何も変わらないというのはその通りであり、これから先の10年を見据えると、これくらい強い表現をしてよいと思う。

副 会 長 「共創」は、全国的にポピュラーなのか、それとも造語なのか。

事 務 局 現行の基本構想で掲げる「協働」は、この10年間で全国的にかなり使われた。「共創」は徐々に出始めている。他にも「共に奏でる」という意味の「共奏」なども検討してきた。

会 長 都市像として、「共創」を掲げている自治体はあるのか。

職 員 WG 市民活動分野の計画などでは使われ始めており、本市の市民活動センターの基本方針の中でも、主要テーマの一つとして使用している。

会 長 「創」は「奏」という表現もある。また「協」ではなく、「共」を用

- いる意図はあるのか。
- 職員 WG 「協」は事例が多く、また画数が多いため字面が重い印象があることを考慮した。
- 委員 将来都市像の理念として「心豊かに満ち足りていて、楽しいと思えるまち」とあるが、楽しいだけでよいのかと思う。これまでから「幸せ」に関する論議もあったと思う。
- また、総合計画は市民と行政で共有するものである。英語を聞いた途端、「Challenge とは何か、Creation は何を指すのか」と、思考が止まってしまう人もおり、英語に逃げ込まない、わかりやすい表現が必要ではないか。「共創」については、「共に創る」とした方が共感を得られると思う。文字は重点テーマ『つながる』との関連性から「共」とされたのかと思う。次に、重点テーマ②の「みなぎる」というフレーズはピンとこない。良い意味で満足している状態という印象を受ける。未だ長浜は満足すべき状況にないため、上を見て頑張るというニュアンスを出せないものか。「共」が重点テーマ①につながり、「創」が重点テーマ②につなげられるように整理できればと思う。
- 会長 「とことん」については、どう思われるか。
- 委員 例えば、「感性が息づく」とあるが、“息づく”とはどういう意味かと指摘したくなる。しかし、「とことん」については、どう突っ込んでいいのかわからない。感性の言葉なので、これはこれでいいのかと思う。ただし、手法的な言葉が前に来ていいのかという気がするし、「とことん」は頑なな印象を受ける。
- 会長 2つの事務局案とも、コピーの前半は態度・意気込みであり、後半はそれを実現した姿というイメージとなっている。
- 委員 案②は、長浜に居る人だけでまちづくりを行うという感じを受ける。今後、まちづくりを進めるにあたっては、新しい人や外から来た人たちと力を合わせていくことが不可欠であることから、英語表記は別として、新しい感覚を活かしていくという意志が前面に出された案①がよいと思う
- 会長 案①について、英語に対してはシニア層を中心に少し抵抗があり、理解が難しいという意見もあるが、英語で表記しない方が良いか、それともこだわった方がよいか。
- 委員 「Creation」は「共創」の“創”にあたると考えることができ、前半と後半で意味が重複している。「あたらしい感性が息づく共創都市ながはま」の部分だけを膨らませばよいのではないか。
- 副会長 理念としては大賛成だが、わかりやすく・やさしい他の言葉がないかと思う。
- 委員 やさしいという意味で、「Challenge & Creation」の後に「共に挑

み、共に創る」という副題を付けてはどうか。そうすれば、英語では伝わりにくい「共に・みんなで」というニュアンスを加えることができる。

会 長 「長浜」という地名は入れるべきか。

委 員 どこかに入れた方がよいと思う。

委 員 漢字にするかどうかは別として、「長浜」という地名を入れることによって、地域にこだわるニュアンス、地域らしさが表現されると思うので、どこかに入れたほうがよいと思う。

委 員 「都市」という表現はどうかと思う。長浜は「都市」というイメージから少し離れており、「まち」という方がしっくりくるのではないか。なお、「Challenge & Creation」は是非入れて欲しい。

委 員 「都市」と書いて「まち」と読みたい。

会 長 これまでの意見を総合すると、以下ようになる。

「Challenge & Creation ～共に挑み、共に創る都市 ながはま～」  
福島委員からは、「Challenge & Creation」については、民間では既に実践されており、いまさら呼びかけるのはいかなものかといった意見であったと思うが、この点についてどうか。

委 員 「Challenge & Creation」や「とことん」という文字を見た時、正直、“しんどい”印象を受けた。長浜の雰囲気は、どちらかといえば、“ほっこり”した感じなので、多くの市民が本当にチャレンジを願っているのか疑問である。会長が言われるとおり、既に地域づくりを頑張っている方もおられ、さらにチャレンジと言われるとしんどいのではないか。

委 員 熱のある表現だと思う。何度も言われると辛くなる印象はある。「挑戦と創造」、「とことん」と言われてもピンとこないので、誰もが受け入れられる表現がよいのではないか。

副 会 長 最初に聞いた時は、受験や予備校のテーマかと思った。

会 長 「Challenge & Creation」は“しんどい”という意見であるが、何もしなければ衰退は間違いないということも、また事実である。常に新しいことを実践する中に未来があるという思いだと思う。

委 員 意図はわかるが、聞いた者はそうは思わないだろう。「何もしなければ、何も変わらない」でなく、「地域のために、やりたいことをやりましょう」のような表現の方が好ましいのではないか。

会 長 やりたいことを伸ばすような表現ということか。

職 員 WG 学力志向、つめこみだけの勉強ではなく、創造性豊かで、自分たちで考え、問題を解決していける生きる力を備えた子どもたち、人を育てていきたいとの思いがあり、このように表現させていただいた。

委 員 思いはよくわかるが、英語を見ただけではそのような背景まで察す

ることができない。例えば、どの企業も様々な考えをもった人の集合体であるが、チャレンジと言われた途端、萎縮して挑戦しない社員が必ず出てくる。チャレンジにリスクは付き物であり、できる限りリスクを負いたくないと考える人もいることも考慮した方がよいと思う。

会 長       そういう意味では、イマジネーション（Imagination）とか、アドベンチャー（Adventure）などの方がよいのかもしれない。

次に、案②についてはどうか。内向きすぎるのでは、との意見もあったが、いかがか。

委 員       「暮らしてよかった、良い人生だった」という表現は、未来への発展を展望しにくいのではないかと思う。継続性のある表現の方がよいのではないか。

委 員       語呂は好きだが、内向きさや、自分のところさえ良ければいいという排他的な側面を懸念する。長浜に対する愛は感じるが、大きな意味で長浜を考えた時、少しマイナスでネガティブな感じを受ける。

会 長       案①と②であれば、不等号で考えると案①の方が高評価のように感じられることから、ここからは案①をより深掘りしたいと思う。

「Challenge & Creation」が“しんどい”ならば、例えば「ほっこり長浜」の方がよいということか。

委 員       長浜を住まいとして捉えるのと、事業・活動のフィールドとして考えるのとで、随分と感覚が異なると思う。

会 長       「新しい感性が息づく」という表現は、いかがか。

委 員       ピンとこない。考え過ぎではないか。

事務局       「Challenge & Creation」、挑戦と創造ということで、黒壁も古い建物に新しい考え方を付与することで、新たな魅力を創り出してきた。また、観音文化信仰についても、守り継がれてきたものに、新しい価値観を付与することで、新たな魅力を創りだすべく、取組を今まさに進めているところである。長浜は、これまでから新しいものを取り入れ、新たな魅力を創り出してきたし、これからもやり続けていくという意志表示の意味も込めて、「新しい感性」としたところである。

会 長       「Challenge」は新しい感性を意味し、「Creation」が共創を意味すると読み替えることができる。「新しい感性が息づく」という表現がよいと思われる方はおられるか。

委 員       今までとは違うものを感じ、私はよいと思う。

委 員       新しい感性は今後も必要だと思う。提案だが、「共創都市」ではなく、「共創のまち」ではいかがか。また、英語を省くことで、子どもからお年寄りまで馴染むのではないか。

委 員       感性（sense）は、芸術的なもののみならず、ものを見て美しいと感じる心や、こだわり、鋭さなどを意味し、既に、長浜は、地域文化を

基礎として豊かな感性を持っていると思う。しかし、“新しい”と定義してしまうと、今までのものを否定する印象を与えることから、あとひと工夫必要だと思う。また、「息づく」という表現はよくわからない。「育む」の方が、持っているものを活かすという意味でよいのではないか。

- 委員 既に感性は息づいているとのことなので、「新しい感性が息づく」という表現は、適切ではないと思う。
- 職員 WG 古いものがダメではなく、「新たな感性」としてはどうか
- 会長 「新たな感性で共に創るまち ながはま」ということか。
- 委員 「新たな感性が息づく」が「共創都市」に係っているわけではなく、2つの意味が共存すべきではないか。「新たな感性が息づき 共に創るまち ながはま」という表現はどうか。
- 副会長 「息づく」よりも「芽生え」の方がよいのではないか。
- 会長 英語は無い方がよいか、それとも別の形を考えるか。
- 委員 英語と日本語を前後逆にする方がわかりやすいのではないか。例えば、「新しい感性が息づく共創都市 長浜 Challenge & Creation」。
- 委員 感性が何かについての説明がなされていないので、人によって解釈が分かれることになる。
- 会長 先程の平山委員の案「共に挑み、共に創る」に、感性の視点は盛り込まれているのか。全体的に入っているという解釈でよいか。新たな感性、豊かな感性など、表現は様々である。
- 委員 感性は個人のものであり、感性を大事にしながら人が共に創っていくまち、という感じを受ける。新しいという表現が相応しいかはわからないが・・・。
- 副会長 新しい感性を取り入れていくことも、チャレンジである。
- 委員 「新たな感性が活きるまち」という表現はどうか。
- 会長 今日の段階で、ある程度の方向性は決めておく必要がある。案①は総論的には賛成なので、その点はよいと思う。ただし、案②の「みんなで未来を創るまち」もわかりやすく、よいと思う
- 委員 「豊かな感性を活かし」はどうか。
- 会長 解釈の分かれぬ表現にしていくと、段々と特徴がなくなり、ありふれた平凡なものになってしまう傾向にある。事務局の思いは、「皆をはっとさせる、わかりやすくも、尖ったキャッチコピー」だと思いがいかか。
- 事務局 皆さんの意見を伺っていると、「Challenge」に抵抗がある方が多いように感じる。例えば、「Creation」のみを活用し、「みんなで未来をつくるまち」などの表現と合わせる方法もあると思うが、いかかか。
- 委員 「新たな感性」は、スペクトラム（範囲）が広いことを主張したい

のであって、これまで培ってきたものを大事にしつつも、新たな感性を活かせる包容力もあるという意味だと思う。

会 長 「Creative 長浜」もしくは「ながはま Creation」など、長浜の文字が入った英語表現とし、その後の副題を考えるとということでしょうか。

委 員 意味的には、Creation の中に Challenge も含まれるのではないか。

会 長 「ながはま Creation 様々な感性が生き みんなで未来を創るまち』とも表現できる。

委 員 「様々な」あるいは「豊かな」など、多様性の観点は入れたい。

会 長 「ながはま Creation ～みんなで未来を創るまち～」で、一旦事務局に返すものとする。

事 務 局 改めて検討し、字面のパターン等もいくつか用意させていただく。

委 員 「取組」、「取り組み」など、文章表記の揺れを統一すべきである。行政文書であれば、名詞は送り仮名不要で、動詞は必要と考える。

会 長 重点テーマ②の「みなぎる」については、既に充足した状態のイメージではないかとのことであったが、さらに充足させていくための表現とも考えることができる。

委 員 「みなぎる」は気になる。また、取組みの方向性の中に、林業についての記載を加えてはどうか。

会 長 農業分野の中に森の活用を含めればよいと思うので、林業についても読み取れるような表現としていただきたい。

委 員 メリハリを付けたとあるが、具体的にどこにメリハリを付けられたのか、説明をお願いしたい。

事 務 局 ひとづくり・教育（テーマ①）、地域の魅力の磨き上げと創造（テーマ②）、新しい都市のあり方の検討と創造（テーマ③）といった形で、今後、重点的に取組を進める３つのまちづくり分野を設定することで、メリハリを表現させていただいた。

会 長 「みなぎる」を別の言葉に代えるのであれば、提案いただきたい。無ければ、このままでいきたいと思う。

委 員 「みなぎる」でよいと思うが、他に「にぎわう」も考えられるのではないか。

委 員 「内にみなぎっているからこそ、かがやく」のだと思う。重点テーマの意味ともつながっており、このままでよいと思う。

委 員 地域としての力が「みなぎる」という意味では、これでよいのかと思う。

委 員 p3 の政策で語尾が全て「～のまちづくり」となっているが、「まちづくり」の文言にこだわる必要はないと思う。「～を育む」などで止めてはどうか。

会 長 政策の構成についても議論を行う必要がある。政策を６つの分野に



分けた理由は何か。

事務局 基本的に、現行の基本構想の構成を大きく変更する必要はないと考えている。

6分野の根拠としては、市の組織は7部1局で構成しており、総務、企画などの管理部門を除くと、実質的には6つに分けることができる。今後の計画の進捗管理などを考慮すると、ちょうど6分類が収まりがよいと考えたところである。

委員 基本構想の中で、「家庭」はどの部分に位置付けられるのか。

事務局 重点テーマ③の「つながる」の中の取組で担うと考えている。今回は、政策を分野別に大きな括りで整理したため抜け落ちているように見えるが、実際には、教育・医療・高齢者福祉など、多くの部局が家庭に関する施策を担っている。

会長 (5) “緑の映える” という表現に関して、再生可能エネルギーや持続可能なまちづくりなどの視点もあることも踏まえ、再考してほしい。

事務局 将来都市像に関しては、市民懇話会や、市の将来を担っていく若い職員の意見を積極的に取り入れたいとの思いもある。本日の意見を踏まえて、再度職員ワーキングなどで整理させていただく。

### 3 その他

#### (1) 次回審議会の開催について

事務局 次回は3月24日(木)13:30からを予定している。

会長 この間、多くの方々に様々な角度から関わっていただき、検討を重ね、ようやくここまで来た。今後は、創り出していくことを体現していくことになる。7月の答申まで、引き続きご尽力いただきたい。

事務局 言葉の一つ一つの重みを実感した。今回の検討では、松島委員を座長とした市民懇話会にて若い人たちを中心に議論いただき、提言いただいた。加えて、提言に留まらず、これからも当事者意識を持って、実際のまちづくりに携っていきたいと言っていた。今回のように、計画の立案段階から次の10年を見据えたまちづくりは始まっていると考えている。今後ともご協力をよろしくお願いしたい。

以上